

# 平成維新東京・第4回(1998年度)総会議事録

(敬称略) 平成維新東京第4回総会記録 澤井正台

日時: 7月19日(日) 13:30~16:10

会場: 大久保スポーツプラザ・3階集会室

実行委員長: 山崎、副委員長: 佐藤、書記: 澤井

出席者数: 本人出席36名、委任状78名

【代表挨拶】

情報公開を運動方針のテーマとして掲げ、23区の食糧費の調査を行い、新聞発表もし日刊紙三紙にも掲載された。また、主義主張が同一と考えられる立候補者には積極的に応援し、当会推薦による議員も輩出できた。これは成果だと思っている。また、特別委員会もそれぞれの活動を積極的にできたと思っている。今後この方向で発展して貰いたい。

【議長選出】 望月氏に決定。

【1997年度活動報告】(杉原) 別紙

【1997年度会計報告】(佐藤) 別紙⇒拍手にて承認。

【1997年度活動費報告】(治田) 別紙

【新代表選出】

◎治田: 一年間代表をしてきた。若い人が出てくれば勇退するつもりで居たが、当初は立候補は私人しか居なかった。政治家志望の人を積極的に支援したい。次期衆院選には長妻さん推薦したいと考えている。また、立候補者が現れ本会の趣旨に合致すれば推薦したい。民主党に偏っているとの指摘も受けているが、今のところ当会の目指しているものと非常に近く、他には代わる党がないと考えている。前年度は情報公開を重点項目として掲げたが、これはすべての根幹である。今の行政も議会も生活者からは何も見えていない。情報公開により生活者から見える政治にしたいと思っている。情報公開はむしろ地方の方が進んでおり、国政レベルにもこの運動を進めていかなければならない。会の名称については会員の皆さんに諮って変えてはどうかと思っている。議員の推薦行為については大前さんが維新の会の名称を使うのはやめてくれ、と言っているのが会名変更の大きな理由である。

○応援演説(杉原): 自民党が大敗し、反自民勢力が躍進した。我々が活動できる時期が来た。治田さんは行動力があり、機を見るに敏である。この洞察力と行動力は代表にふさわしい。

○応援演説(山崎): 行動力が優れている。会の透明性も非常に良く、他市民団体や無党派層を結集しなくてはならない。治田さんはそれができる。

◎山本(応援演説の時間を自分の分に加えて演説): 独自の運動の展開は理解できるが、大前さんの考え、思想を引き継ぐとして、この会ではできたはずである。名前を変えるということは大前さんの思想に集まってきた会員の意志に背反するものである。また、特定政党、民主党との関係を、深めていくのは間違いだと思う。大前さんはまた都知事選にでてくると思っている。その時にはこの会は元のままの会名で大前さんを支援していかねばならない。

Q会場から質問: 菅プロジェクトと大前研一氏との関係でクレームがきたと聞いてたが、本当か。

A答え: 選挙における推薦でクレームが来たと認識している。

Q質問: 会名の変更問題については、実現する会が発足するときに討議し、結論がでていたと思います。なぜ、この時期なのか。

A答え: 名前よりも中身が大事だと思っています。ただ、この時期に来て問い直しても良いのではないか。

○その他意見

・会の名称でクレームが付くというのであれば、選挙の時は別称を使ってはどうか。

・無党派層というのは地方選レベルで国政ではあり得ない。平成維新も無党派といいつつ、特定政党を支援することはあり得る。

・もし会名を変更するというような決議になるのであれば、会員に十二分な期間を設けて周知徹底する必要がある。

【投票】 出席者 委任状 不在者 投票 合計

◎治田氏 32 27 24 83

◎山本氏 6 1 26 33

・無効票はゼロでした。

・新代表は治田桂四郎さんに決定しました。

【新代表挨拶】

1998年度の活動方針としては議員の推薦で多くの議員を輩出したい。菅プロジェクト(菅さんを総理大臣にしようという草の根運動)は推進していきたい。情報公開委員会も力を入れていきたい。

【1998年度予算説明】(佐藤) 別紙⇒拍手にて承認。

【会場より自由討議】

中村: 会費を安くするという提案が前にあったが、会報のボリュームを下げて安くすればどうか。

杉原: あの提案の趣旨は、会報を隔月・年6回発行にして、年会費1口1000円の提案であるが、役員等に2~10口の負担を求めるもので、運営会議等で未だ賛同を得られていない。

長妻: 皆さんの支援で小川さんは当選できました。ご協力ありがとうございました。本人を来させるつもりでしたが、生憎多忙で伝言だけですが、有り難うございました。議員立法に力を入れて居り、幹旋利得罪を是非成立させたいと運動中です。

林: 政治家支援の方法は候補者の推薦という事だけでなく、色んな手法があるのではないか。行政改革についても色んな手法がある。大前さんも行革への色んな手を考えている。都民の会も色んなアプローチを考えて良いのではないか。

杉原: 本日は会の名称問題が出てきたので、一般会員にもわかるように色んな人が色んな意見を言って下さい。生活者通信に載せたいと思います。

その他の意見等についても寄稿して下さい。

足代: 平成維新というのはもひとつ浸透力がない。昔の新鮮さがなくなってしまった。そういう意味では会名変更も考えてよいかもしれない。

田代: 大前さんを信頼し、付いて行っているが、絶対ではない。かといって、反発してもいけない。協調できるものは協調し、独自性については大前さんの考えつかないような運動、アプローチを考えて行かなくてはならない。

伊藤: 大前さんあっての平成維新である。名前問題はもう少し静観して、実際の運動で示していきましょう。

この後、閉会まで各自の参院選での感想、今後の運動のあり方、大前さんとの運動協調等々意見が出された。

【二次会】閉会后、希望者による二次会が高田馬場駅近くの清瀧にて行われた。